

今年は、大雪の影響で桜の開花が5日程度遅くなり4月16日ころに桜の便りが届くと思います。。

又、今年はコロナウィルスで1月から3月までまん延防止等重点処置が発令されていましたが、ようやく解除になり日常に戻れると思います。

話は変わりますが今年の大河ドラマは「鎌倉殿の13人」で北条義時が主人公になっており、鎌倉殿（源頼朝）と13人の有力御家人による権力闘争が描かれています。ただ今回は、サブキャラであるが有名人である源義経に焦点を当ててみたいと思います。今回の大河では自由奔放で空気の読めないサイコキャラとして描かれています。

ここで源義経の生涯を（本当かね？）プロフィールを記載して見ます。

名 前 源義経
別 名 九朗判官（左衛門少尉）
生 年 平治元年（1159年）
生誕地 京都
没 年 文治5年（1189年30歳）

年 表

源義経誕生。

父義朝平治の乱で平清盛に敗れる。

平治元年（1159年）0歳

鞍馬寺に預けられる。

嘉応2年（1170年）11歳

奥州平泉へ下って藤原秀衡を頼る。

承安4年（1174年）16歳

兄頼朝の挙兵に応じ奥州より参じる。

治承4年（1180年）21歳

木曾義仲を滅ぼし、一の谷で平家を敗走させた。

朝廷より左衛門少尉檢非違使に任命される。

元暦元年（1184年）25歳

平家を壇ノ浦で滅亡させる。

元暦2年（1185年）26歳

頼朝に無断で任官される等により

対立奥州平泉に落ち延びる。

文治3年（1187年）28歳

藤原泰衡に襲撃されて衣川館で自刃。

文治5年（1189年）30歳



以上大雑把ではありますがこんな感じです。

判官びいきという語源は、義経に対して抱く、客観的な視点を欠いた同情や哀惜の心情を表しているということです。

この他に生き延びて、大陸に渡りチンギス・ハーンになった説がありますが、流石に眉唾と思われる。

今回の脚本でサイコな義経をどう描いていくのか興味が尽きませんね。